

厳原町の子どもたちが、対州馬に体験乗馬



対馬青年の家特別事業「冬体験塾」



対州馬と楽しくふれ合う子どもたち



2月4日、県立対馬青年の家主催の特別事業「冬体験塾」に参加した厳原町内の4～6年の小学生22名が、上県町の目保呂ダム馬事公園で対州馬に体験乗馬しました。

子どもたちは、馬に近づいて頭をなでたり草を食べさせたりしてふれ合った後、スタッフの手を借りて対州馬にまたがりました。

予想以上に高い馬の背に最初は怖がっていた子どもたちも、おとなしく歩く馬にすぐ慣れた様子で、笑顔で乗馬を楽しんでいました。

今回、初めて乗馬を体験した久田小4年の佐々木菜月さん(9歳)は「馬が今にも走り出しそうで慣れるまで怖かったけど楽しかった。また乗りたいです」と笑顔で話していました。

「冬体験塾」は厳しい寒さの中で、登山などを通してたくましい体と心を育てようと毎年開かれています。

きんたろう広場

2月18日、比田勝幼稚園おゆうぎ会「きんたろう広場」が上対馬総合センターで開催されました。元気いっぱいに歌や踊りを披露する園児達の姿に、会場に詰めかけた観客は大いに盛り上がりました。



今年の吉凶を占う豆殻の亀卜神事きぼく 「子どもが活躍する可能性あり」



2月20日、厳原町豆殻の雷神社で恒例の亀卜神事いかずちが行われました。この神事は毎年、旧暦の正月3日に行われており、亀の甲羅を火に当て、できたひび割れの形でその年の吉凶を占うというものです。

占者は豆殻の岩佐家に代々世襲されており、69代目の岩佐恭治さんが、祝詞を唱えた後、今年の占いを25枚の半紙に次々に書きしるしました。

対馬関連の明るい予想としては、「子どもたちがスポーツや文芸で大人顔負けの活躍をする可能性がある」そうです。